
桜

joker

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜

【コード】

N1158A

【作者名】

joker

【あらすじ】

簡単に言えば、水マニアの父が娘を探す話？

(前書き)

こんな話作りなれてません。どこか不明な点がありましたらメッセージください。

先日。

私は遠い公園に花見をしにしようと、家族を車に乗せ、走っていた。初めは順調に進んでいたのだが、途中、事故があったのか、かなり混んでいて、なかなか進み出せないでいた。

「まだ？」

と聞いてくる娘や息子に私はもうすぐ、もうすぐと返すばかりだった。

いい加減に我慢出来なくなった私は、少し進んだあとに見えた駐車場に車を止め、ほかに道がないか探すことにした。

時々混み具合を確認し、まだ混んでいたらまだ探し、その繰り返しだった。

途中、中学生の娘と息子も探すのを手伝ってくれた。

妻は大まかな地図を見て、距離を確かめている。

「早く花見したいね」

そう呟く娘に、私は謝ってばかりいた。

娘はこの日のために早起きして、皆で食べる弁当を母と準備していたのだ。

もっと早く出発していれば。

道を調べていれば。

後悔するばかりだった。

しばらくして、娘は近くのコンビニへ飲み物を買に行くと、車を出た。

私もついていこうとしたが、父さんのために買いに行くんだから、ここでまってて、と断られ、私は車に残った。

私を心配してくれる家族がいる。

今まで一度も寂しかったことはない。

家族が居てくれたから、今私はこうして幸せを分かち合えるのだ。

30分程経過したが、娘の姿は見えない。
そんな遠くにいつているはずもない。
だんだんと不安になった私は、車を降りて、走ってコンビニまで向かった。
娘の姿はなかった。
どこにもいない。
携帯も繋がらない。

……
私の中の不安は山のように大きくなるばかりだった。
娘が見当たらない。
何かあったに違いない。
私はまだ先にあるコンビニへ走った。

……
心臓の鼓動は速く、息が荒い。苦しい。
しかし私は苦にならなかった。
娘を、娘を探せばこんな不安はすぐに無くなる。早く、娘を見つきたい。

私は走った。
しばらくすると、妙な人だかりが目に入った。
まさか……
私の不安は抑え切れない程の山になりつつあった。
救急車…救急車の音だ。
サイレンが鳴る。
普段はどうも思わない音が、今では、命綱を断つ魔物の声のように頭に響きわたる。
私は人だかりを掻き分け、先へ進んだ。

……
「……」
そこには傷だらけになった娘が横になり、息苦しそうにこっちを見ていた。

「何故、なんでこんな遠くまで!!」

娘をやさしく抱き抱え尋ねた。

すると娘は近くにあったボロボロのビニール袋の中から転がったボトルを取り、私に渡してくれた。

「…これが無かったから…」

そう言っただけで渡してくれたものは、私がいつも飲んでる水だった。

私は殆ど水しか飲まないため、冷蔵庫はたくさんの同じミネラルウォーターでいっぱいだった。

娘は、これを買ったために遠くまで来たのか。

辺りを見回すと、一台のへこんだワゴン車が止まっていた。

周りに話を聞くと、ハンドルのきかなくなった車が、娘に突っ込んで来たらしい。

娘は救急車に乗せられ、私と共に病院まで向かった。

……

……

……

結局、その春…否、それからの春は、家族全員で花見をする機会は訪れなかった。

私は必死で働き、桜の木を一つ買い、庭に植え、成長する様子を毎日記録していった。

そして私が去ってから、春が訪れる度に、大きくなったことを知らせるかのように、美しい花を咲かせ、家庭を見守ってくれていたそうだった。

今こうしている中でも、私は寂しくない。

毎日、娘と一緒に家族を見守り、春になれば、一緒に桜を見ること出来るから。

(後書き)

こんな話でスマソorz
下手な小説を読んでいただいで光栄でおます(大袈裟?)
よかったです感想下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1158a/>

桜

2011年1月27日14時53分発行